

# 事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
32121	坊っちゃん文学賞運営事業	総合政策部	文化・ことば課	シートB	2
32121	ことばのちからイベント事業	総合政策部	文化・ことば課	シートB	4
32212	俳句ポスト事業	総合政策部	文化・ことば課	シートB	6
44211	文化振興事業	総合政策部	文化・ことば課	シートB	8
44211	松山城新能事業	総合政策部	文化・ことば課	シートA	10
44211	松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金	総合政策部	文化・ことば課	シートA	11
44211	文化スポーツ振興事業補助金	総合政策部	文化・ことば課	シートA	12
44212	ふるさと館管理運営事業	総合政策部	文化・ことば課	シートA	13
44212	市民会館管理運営事業	総合政策部	文化・ことば課	シートB	14
44212	市民会館改修事業	総合政策部	文化・ことば課	シートA	16

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主事 浦川 健太		
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主事 浦川 健太		

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	32121	坊っちゃん文学賞運営事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	2:委託				
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	112	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム						
政策	都市全体の価値や魅力を向上する				重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト						
施策	選ばれる都市づくり				主な取り組み	ことば文化の内外発信						
主な取り組み	「ことば」文化の内外発信		市長公約	232	誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります							
取り組みの柱	「ことば」文化の浸透				スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳句松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。							
総合戦略	5611	基本目標 ⑤暮らしと経済を守る(暮らしと経済まちづくり) 政策 ⑥ふるさとづくりの推進 施策 ①市民主体・地域特性を生かしたまちづくり	取組み	①文化的土壌が豊かな街という強みを生かし、更なる「ことばを大切にすま松山」の魅力発信に取り組みます。				(総合戦略) 未来プロジェクト、該当有無	2:無し			
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	1:有り		重点的取組事業該当有無(H30)	1:有り		(重点該当の場合)	開始年度	平成	30	終了(予定)年度	平成	30
根拠法令,条例,個別計画等	松山市文化芸術振興計画											
事業の目的(どのような状態にするか)	近代俳句の父・正岡子規を生み、明治の文豪・夏目漱石が小説「坊っちゃん」に描いたまちという豊かな文化的土壌をいかし、本市の文化的イメージアップと市民文化の向上を図る。											
背景(どのような経緯で開始したか)	平成元(1989)年の市制施行100周年を記念して創設。全国の多くの市が市制100周年を迎える中で、「坊っちゃん文学賞」は自治体文学賞の先駆けとなった。											
対象(誰を,何を)	文学賞に関する事業の運営。											
事業内容(どのような活動・手段か)	電通西日本(株)へ委託料を支出。平成29(2017)年末に審査員の早坂暁氏が御逝去され、また第15回・30年という大きな節目を終えたことから、平成30(2018)年度は小説の募集を行わず、これまでの坊っちゃん文学賞の軌跡や功績を振り返る1年とした。 【トークイベント】9月24日、椎名誠氏、中沢新一氏、高橋源一郎氏をお招きし、30年を振り返るトークイベントを開催。約500名が来場。 【作品集の制作】歴代15回の大賞19作品を収録した作品集600部を制作。約100部は市内の学校へ、約300部は全国の図書館へ配付。150部は一般販売。											
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	2:無し		有りの場合、その協働の内容								
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り		(有りの場合) URL	http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/machizukuri/kotoba/bocchan.html		パンフレット等の有無	2:無し		(有りの場合) 設置場所		
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合、基準や金額等	150部を一般販売した「坊っちゃん文学賞作品集1988-2017」は、定価2,000円とした。		「無し」の場合、その理由					
始期・終期(年度)	昭和	63		～	終期設定できない場合の理由							15回・30年の伝統を継承し、「ことばと文学のまち松山」を全国に発信する事業として発展・継続するため。

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費	目	文化振興費	H30予算措置時期	当初
				H28年度	H29年度					
現計予算額(A)(単位:千円)				18,748	32,700			13,336		14,377
決算額(B)(単位:千円)				18,695	32,700			13,126		
内訳(単位:千円) ※H28~30→決算内訳, H31→予算内訳				国支出金	0	0		0		0
				県支出金	0	0		0		0
				市債	0	0		0		0
				その他	0	0		0		0
			一般財源	18,695	32,700		13,126		14,377	
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算						委託料:12,957千円		委託料:13,240千円 賃金:1,000千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)	53	0			210		
人役(単位:人) ※小数点第一位まで				正規職員	0.6	0.5		0.5		0.6
				正規職員以外	0.0	0.0		0.0		0.0

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	【トークイベント】9月24日、椎名誠氏、中沢新一氏、高橋源一郎氏をお招きし、30年を振り返るトークイベントを開催。 【作品集の制作】歴代15回の大賞19作品を収録した作品集600部を制作。		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	15回・30年という大きな節目を終えたことから、賞の内容をリニューアルすることとした。募集対象を小説からショートショートとする。			
主な取組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	トークイベントには500名の市民が参加し、審査員のトークで15回・30年を振り返ることができた。作品集のうち一般販売用150部は在庫が約30部となっている。			
中核市の実施状況	2:半数未満で実施	事業の独自性	平成元年度に全国の市が市制100周年を迎え、20ほどの自治体文学賞が設立されたが、多くはすでに終了している。坊っちゃん文学賞は自治体文学賞の先駆けとして、今も走り続けている。				
類似事業の有無(国,県,民間等)	1:有り	「有り」の場合,事業名・実施主体等	ちよだ文学賞(千代田区)、北区内田康夫ミステリー文学賞(北区)、林美子文学賞(北九州市)、小川未明文学賞(上越市)など				
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	政策性	1	1:政策的意決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		行政専門性	2	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	毎回、国内外から1,000点前後の応募を受けていることは、本市の全国周知とイメージアップにつながっている。				
H31年度の目標	ショートショートの文学賞としてリニューアルし、今まで以上の応募数を得る。		H31年度の主な取組み内容(予定含む)	4月募集開始。4,000字以内のショートショートを募集。特定のテーマは無し。審査員長は松山出身のショートショート作家・田丸雅智氏。インターネットまたは郵送で応募。9月30日募集締切。結果発表と表彰式は1月(予定)。大賞(1名)には50万円、佳作(5名)には10万円を贈る。大賞作品は雑誌「ダ・ヴィンチ」に掲載。	特に環境変化,障害,課題等解決のため,H31年度で取り組む改善策	より一層、「ことばと文学のまち松山」の全国発信が行えるよう審査員もリニューアルし、これまでの2カ年での開催を毎年の開催とする。	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	最終目標	
活動指標 (3つまで設定可)	書き方ワークショップ開催数	回	目標値	-	1	-	5	5	目標値 5	
			実績値	-	1	-	-	-	達成年度 -	
			% 達成度	-	100%	-	-	-	-	
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)			最終目標値の設定の考え方		他の文学賞と比べても多くの応募を受けており、現状を維持するため。			
	本指標の設定理由	作品の応募につながる取り組みであるため。								
			目標値						目標値	
			実績値						達成年度	
			% 達成度							
	指標の種類				最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由									
		目標値						目標値		
		実績値						達成年度		
		% 達成度								
指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由										
成果指標 (3つまで設定可)	作品の応募数	点	目標値	-	1,200	-	2,000	2,000	目標値 2,000	
			実績値	-	1,941	-	-	-	達成年度 -	
			% 達成度	-	162%	-	-	-	-	
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)			最終目標値の設定の考え方		他の文学賞と比べても多くの応募を受けており、現状を維持するため。			
	本指標の設定理由	賞の魅力や本市のPR度を測る指標として設定。								
	応募のあった都道府県数	県	目標値	-	47	-	47	47	目標値 47	
			実績値	-	47	-	-	-	達成年度 -	
			% 達成度	-	100%	-	-	-	-	
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)			最終目標値の設定の考え方		本市のPRが全国に行き届いている成果として47都道府県を最終目標値とする。			
	本指標の設定理由	賞の全国展開度合いを測る指標として設定。								
		目標値						目標値		
		実績値						達成年度		
		% 達成度								
指標の種類				最終目標値の設定の考え方						
本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	第15回・30年という大きな節目を終えたことから、平成30(2018)年度は小説の募集を行わず、これまでの坊っちゃん文学賞の軌跡や功績を振り返る1年としたため、作品募集の広告掲載等は行わなかった。								
	成果指標	第15回・30年という大きな節目を終えたことから、平成30(2018)年度は小説の募集を行わなかったため、応募も無い。								
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容	明治の文豪・夏目漱石が小説「坊っちゃん」で描いたまちという本市の個性をいかした独自性の高い取り組みとして、効果的に全国PRができています。									

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	こぼのちから	連絡先	948-6952			
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主幹	担当者名	主任	清水 敏樹	主事	上田 麻子
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	こぼのちから	連絡先	948-6952			
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主幹	担当者名	主査	上田 一樹	主事	上田 麻子

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	32121	こぼのちからイベント事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金				
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	112	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム						
政策	都市全体の価値や魅力を向上する				重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト						
施策	選ばれる都市づくり				主な取り組み	こぼ文化の内外発信						
主な取り組み	「こぼ」文化の内外発信		市長公約	232	誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります							
取り組みの柱	「こぼ」文化の浸透				スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳都松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。							
総合戦略	5611	基本目標 ⑤暮らしと経済を守る(暮らしと経済まちづくり) 政策 ⑥ふるさとづくりの推進 施策 ①市民主体・地域特性を生かしたまちづくり	取組み	①文化的土壌が豊かな街という強みを生かし、更なる「こぼを大切にすまら松山」の魅力発信に取り組みます。		(総合戦略) 未来プロジェクト、該当有無	2:無し					
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	1:有り		重点的取組事業該当有無(H30)	1:有り		(重点該当の場合)	開始年度	平成	17	終了(予定)年度	平成	31

根拠法令, 条例, 個別計画等	松山市文化芸術振興計画											
-----------------	-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業の目的(どのような状態にするか)	正岡子規や夏目漱石と縁の深い松山ならではの豊かな文化的土壌を生かして、「こぼ」をキーワードとした文化事業を展開し、「こぼを大切にすまら松山」を市内外に発信する。											
背景(どのような経緯で開始したか)	・21世紀を目前に控えた2000年(平成12年)、新たな街の活性化を目的として、各分野で活躍する人材を集めた「松山21世紀イベント協議会」を発足させ、21世紀イベント事業をスタートした。 ・同協議会が実施した「こぼのちから2001」が第6回ふるさとイベント大賞(平成14年)を受賞するなど取り組みが評価されたことから、引き続き「こぼ」をキーワードとして事業を展開することとなった。											
対象(誰を、何を)	・こぼのちからイベント:こぼのちから実行委員会(負担金) ・俳句甲子園:NPO法人俳句甲子園実行委員会(負担金)											
事業内容(どのような活動・手段か)	・第21回俳句甲子園を共催。 ・俳都松山PR事業として、夏井いつき氏を俳都松山大使に任命し、イベントを開催。 ・こぼのちから実行委員会、NPO法人俳句甲子園実行委員会へ負担金を支出。 ・「こぼ」を街中に掲示する「街はこぼのミュージアム」の実施や「響け!!言霊第11回「こぼのがっしょう」群読コンクール」を開催。 ・俳都松山俳句ポストの設置50周年に係る記念イベントを開催。											
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	1:有り		有りの場合、その協働の内容	こぼのちから実行委員会を組織し、事業を実施。 NPO法人俳句甲子園実行委員会とイベントを共催。							
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り		(有りの場合) URL	こぼのちから <a href="http://www.kotobanochikara.net/">http://www.kotobanochikara.net/</a> 俳句甲子園 <a href="http://www.haikukoushien.com/">http://www.haikukoushien.com/</a>		パンフレット等の有無	1:有り		(有りの場合) 設置場所	文化・こぼ課(本館4階)	
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由	俳句甲子園では参加登録費として、地方大会は参加1チームあたり5,000円、全国大会は選手1人あたり15,000円の負担あり。							
始期・終期(年度)	平成	12		～	終期設定できない場合の理由	本市特有の資源を活用した「こぼを大切にすまら松山」の情報発信を継続するため。						

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費			総務管理費		目	文化振興費	H30予算措置時期	
				H28年度	H29年度	H30年度	H30年度	当初				
現計予算額(A)(単位:千円)				49,648	44,014				36,118		39,731	
決算額(B)(単位:千円)				48,161	44,149				34,221			
内訳(単位:千円) ※H28～30→決算内訳, H31→予算内訳	国支出金			0	0				0		0	
	県支出金			0	0				0		0	
	市債			0	0				0		0	
	その他			0	0				0		0	
一般財源				48,161	44,149				34,221		39,731	
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算							負担金:25,376千円 委託金:4,598千円 旅費:2,357千円		負担金:35,676千円 旅費:2,086千円 報償費:1,087千円			
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等												
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)	1,487	-135			1,897			
人役(単位:人) ※小数点第一位まで							正規職員		4.0		3.9	
							正規職員以外		0.0		0.1	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>第21回俳句甲子園を共催。</li> <li>俳都松山PRイベント(俳都松山×俳句ポスト50周年)を実施。</li> <li>響け!!言霊第11回「こぼのがっしょう」群読コンクールを開催。</li> <li>友好交流都市協定を結ぶ台北市への俳句ポストの設置。</li> </ul>		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>俳句甲子園は47都道府県からの大会参加を目指す中で、前回大会では40都道府県の参加であった。</li> <li>群読コンクールは、参加対象をを広げ高校生グループから1件の応募があったが、大学生・専門学校生グループからの応募はなかった。</li> </ul>				
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>第21回俳句甲子園へのエントリーは、都道府県、学校数、チーム数いずれも歴代2番目のエントリー数であった。</li> <li>第11回群読コンクールは、参加団体数、参加チーム数ともに増加した。</li> <li>台北市へ俳句ポストを設置し、俳句を通じた文化交流を進めた。</li> </ul>				
中核市の実施状況	1:オンリーワン	事業の独自性	正岡子規や夏目漱石ら文人との縁が深い豊かな文化的土壌という地域資源を最大限活用したまちづくりを行っている点が評価され、平成26年度文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)の受賞につながっている。					
類似事業の有無(国,県,民間等)	2:無し	「有り」の場合、事業名・実施主体等						
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない		実施主体の妥当性	1	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)	
	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない				2	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している		左記の理由	俳句甲子園の取り組みが「俳都松山宣言」につながるなどの点が評価され、総務省から地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰を受賞するなど、本市の魅力を高めているため。				
H31年度の目標	各イベントの参加者数や来場者数の拡大を図り、松山と多様な形で関わる関係人口を創出・増加させるとともに「こぼを大切にすまら松山」の魅力を市内外に発信し、さらなる「こぼのちから」によるまちづくりを推進する。		H31年度の主な取り組み内容(予定含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第22回俳句甲子園</li> <li>第12回群読コンクール</li> <li>まつやま落語まつり</li> </ul>		特に環境変化、障害、課題等解決のため、H31年度で取り組み改善策	俳句甲子園の参加都道府県を増やすため、未参加県を中心に出張講座を開催し、大会参加を促す。 ・群読コンクールの参加数を増やすため、広報周知を強化する。	

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	俳句甲子園未参加県での出張講座実施数	都道府県	目標値	10	10	10	10	10	目標値	10	
			実績値	7	9	9			達成年度	R2年度	
			% 達成度	70%	90%	90%					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		H23年度末に大会未参加であった福井、滋賀、奈良、和歌山、鳥取、山口、佐賀、長崎、大分、宮崎の10県を対象とし、出張講座の実施により大会参加を促し、全都道府県の参加を目指す。目標値を10県とし、実績値は前年度までに実施した積算値を含む合計県数とする。			
	本指標の設定理由	H23年度末に大会未参加であった10県を対象として設定し、当該10県での出張講座実施を目指すため。				最終目標値の設定の考え方					
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			% 達成度								
	指標の種類					最終目標値の設定の考え方					
	本指標の設定理由					最終目標値の設定の考え方					
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			% 達成度								
	成果指標 (3つまで設定可)	俳句甲子園への参加都道府県数	都道府県	目標値	44	47	47	47	47	目標値	47
				実績値	34	41	40			達成年度	R2年度
% 達成度				77%	87%	85%					
指標の種類		1:単年度での増加を目指す指標				最終目標値の設定の考え方		第6次総合計画の目標である、俳句甲子園への47都道府県からの参加を目指す。			
本指標の設定理由		本市の魅力PRできる大会として、参加都道府県を拡大するため。				最終目標値の設定の考え方					
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			% 達成度								
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由						最終目標値の設定の考え方					
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			% 達成度								
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)		活動指標	平成27年度から、大会未エントリー県等の教育関係者を全国大会に招聘し魅力や教育的意義を体感してもらう事業は終了しているが、福井県は視察参加をしていたものの、出張講座は実施できていない。								
		成果指標	青森県、山梨県、香川県からの出場が途絶えたが、前年度に参加の無かった大分県、さらに過去一度も参加のなかった鳥取県から大会参加を得ることができた。								
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	こぼのちから	連絡先	948-6952	
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主幹 石橋 美幸	担当者名	主任	福島 卓
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	こぼのちから	連絡先	948-6524	
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主幹 石橋 美幸	担当者名	主事	上田 麻子
								主事	松本 沙紀

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	32212	俳句ポスト事業	事業登録	当初	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	1:直営	
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	個別プログラム	-				
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			重点プロジェクト	-				
施策	観光産業の振興			主な取り組み	-				
主な取り組み	観光都市としての魅力向上		市長公約	232	誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります				
取り組みの柱	既存観光資源の有効活用				スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳都松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。				
総合戦略	基本目標	-		取組み	-		(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無	-	
	政策	-			-			-	
	施策	-			-			-	
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	2:無し		重点的取組事業該当有無(H30)	2:無し		(重点該当の場合)	開始年度	平成	
終了(予定)年度	-		終了(予定)年度	-		平成	-		
根拠法令, 条例, 個別計画等	松山市文化芸術振興計画								
事業の目的(どのような状態にするか)	俳句ポストを通じて「俳都松山」の魅力やPRする。市内のポストは、設置地域の市民や松山を訪れた観光客らが俳句に親しみ、俳都松山の魅力を体感する。市外設置のポストは全国各地で正岡子規や俳都松山の存在をPRする。								
背景(どのような経緯で開始したか)	俳句ポストは、昭和41年に子規・漱石・極堂生誕百年祭の記念事業の一つとして観光俳句を募集し好評を得たことから、昭和43年5月に松山城長者ヶ平へ第1号の松山市観光俳句ポストを設置した。								
対象(誰を、何を)	市民及び観光客を対象に主要観光施設等に俳句ポストを設置し、投句を促している。								
事業内容(どのような活動・手段か)	昭和43年5月に松山城長者ヶ平へ第1号の松山市観光俳句ポストを設置。第2号を同年9月に子規堂、昭和44年4月には道後温泉本館へと、年々俳句ポストを増やしてきた。現在は主要観光地や道後温泉のホテル・旅館、路面電車や四国八十八ヶ寺など、90ヶ所以上に設置。平成22年からは、小説『坂の上の雲』ゆかりの県外の都市にも10ヶ所以上設置。平成24年4月、ベルギー・ブリュッセル市に海外では初となる俳句ポストを設置。平成25年11月には、松山市との姉妹都市提携25周年を迎えたドイツ・フライブルク市にも俳句ポストを設置。平成29年度は、子規・漱石生誕150年を記念し、子規の生誕地である花園町に設置した。平成30年度には50周年を迎え、俳句ポストの名称を「俳都松山俳句ポスト」に変更するとともに、友好交流都市の台湾台北市に設置した。投函された用紙の回収、選句(松山俳句協会ほか)、発表等を行っている。								
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	2:無し		有りの場合、その協働の内容				-	
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り		(有りの場合) URL	<a href="https://www.city.matsuyama.ehime.jp/kanko/kanko/guide/rekishibunka/haiku/kankohaikupost.html">https://www.city.matsuyama.ehime.jp/kanko/kanko/guide/rekishibunka/haiku/kankohaikupost.html</a>		パンフレット等の有無	2:無し	
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合、基準や金額等				「無し」の場合、その理由	
始期・終期(年度)	昭和	41 ~		終期設定できない場合の理由				松山の特徴的な文化である「俳句」と「俳都松山」を継続的にPRする必要があるため。	

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		目	文化振興費	H30予算措置時期	当初
				項	総務管理費				
				H28年度	H29年度	H30年度		H31年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				3,479	6,434		6,282		5,659
決算額(B)(単位:千円)				3,034	6,031		5,737		
内訳(単位:千円) ※H28~30→決算内訳、 H31→予算内訳	国支出金			0	0		0		0
	県支出金			0	0		0		0
	市債			0	0		0		0
	その他			0	0		0		0
			一般財源	3,034	6,031		5,737		5,659
主な経費(単位:千円) ※H30→決算、H31→予算							報償費 547千円、広告料 791千円、委託料 3,532千円(うち「俳句ポスト365運営業務委託」3,408千円)		報償費 580千円、広告料 760千円、委託料 3,485千円(うち「俳句ポスト365運営業務委託」3,363千円)
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)	445	403		545		
人役(単位:人) ※小数点第一位まで	正規職員			0.0	0.2		0.0		0.1
	正規職員以外			0.3	0.0		0.7		0.9

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	俳句ポストの設置及び維持管理 投句用紙の回収、選句(投句数 H30年度:9,548句) 俳句ポスト365の運営(投句数 H30年度:166,324句、)		H30年度終了までに把握している環境の変化、 障害、課題となっている事項	H29年度から文化・こぼ課に事務移管し、同時に、インターネットで俳句の投稿を募集する「俳句ポスト365運営業務」を、本事業に統合している。 投句用紙の回収や俳句の入力にかかる事務処理方法の効率化が必要。		
主な取組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	インターネットで投稿できる俳句ポスト365へ多くの投稿が寄せられた。		
中核市の実施状況	2:半数未満で実施	事業の独自性	市外や海外にまで俳句ポストを設置している市は少ない。			
類似事業の有無(国、県、民間等)	1:有り	「有り」の場合、事業名・実施主体等	熊本市、鎌倉俳句&ハイク実行委員会、新潟県出雲崎町観光協会、千代女の里俳句館(石川県)、大子町観光協会(茨城県)、須賀川市(福島県)などで俳句ポストを設置活用しているほか、大垣市と千代女の里俳句館(石川県)ではインターネットでの俳句募集を行っている。			
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	2	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	3	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	行政専門性	2	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	松山の特徴的な文化である俳句の魅力発信し、俳都松山のPRに貢献している。			
H31年度の目標	俳句ポストとインターネット俳句投稿サイト「俳句ポスト365」の両者を活用し、俳都松山の魅力発信と俳句文化の裾野拡大を図る。		H31年度の主な取組み内容(予定含む)	俳句ポストの設置及び維持管理 投句用紙の回収、選句 俳句ポスト365の運営	特に環境変化、障害、課題等解決のため、H31年度で取り組み改善策	投句用紙回収順路等の更なる最適化を図り、投句用紙回収に係る所要時間の短縮を図る。

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	俳句ポストの設置数	箇所	目標値	-	-	-	111	111	目標値	111	
			実績値	108	109	111			達成年度	R2年度	
			% 達成度	-	-	-					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)						最終目標値の設定の考え方	設置減要因があるなかで、現状の設置数を維持するため。		
	本指標の設定理由	投句する機会の増加を図るため。									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類							最終目標値の設定の考え方			
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類							最終目標値の設定の考え方				
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	俳句ポストの投句数	点	目標値	-	-	-	9,700	9,800	目標値	9,800	
			実績値	10,895	9,907	9,547			達成年度	R2年度	
			% 達成度	-	-	-					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)						最終目標値の設定の考え方	年約100句の増加を目指す。		
	本指標の設定理由	俳句に親しむ人を増やすことにより本市の魅力をPRするため。									
	俳句ポスト365の投句数		点	目標値	-	-	-	178,000	180,000	目標値	180,000
				実績値	80,890	127,377	166,324			達成年度	R2年度
				% 達成度	-	-	-				
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)						最終目標値の設定の考え方	年約2,000句の増加を目指す。		
	本指標の設定理由	俳句に親しむ人を増やすことにより本市の魅力をPRするため。									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類							最終目標値の設定の考え方				
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	新規設置を図るとともに、既存の俳句ポストの老朽化が進んでいる箇所は修繕を行い、設置箇所数が減少しないよう努めた。									
	成果指標	インターネットで投稿できる俳句ポスト365の投句数が上昇しており、俳句に親しむ人が増加し、俳都松山をPRすることができた。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主事 浦川 健太		
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主事 浦川 健太		

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	44211	文化振興事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金				
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】		笑顔プログラム	112	個別プログラム	笑顔が集まるプログラム						
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む				重点プロジェクト	松山への新しい人の流れをつくる「心ひかれるまちづくり」プロジェクト						
施策	文化芸術の振興と活用				主な取り組み	こぼ文化の内外発信						
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約	232	誰もが自分らしく、いきいきと暮らせる松山をつくります							
取り組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実				スポーツコンベンションの誘致や地域でのスポーツ活動の活性化、俳句松山ならではの文化プログラムの実施など、市民の誰もが気軽にスポーツや文化芸術に親しめる機会を充実します。							
総合戦略	4231	基本目標 ①魅力ある仕事と職場をつくる(地域経済活性化) 政策 ②産業の競争力強化(業種別取組) 施策 ③文化・芸術・スポーツ等の地域資源を活用したビジネス創出	取組み	①平成28年度末に策定予定の「(仮称)文化振興計画」に基づき、文化ビジネスの創出など、文化芸術の活用により地域経済活性化につながる取組を検討します。				(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無	2:無し			
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	1:有り		重点的取組事業該当有無(H30)	1:有り		(重点該当の場合)	開始年度	平成	30	終了(予定)年度	平成	30
根拠法令,条例,個別計画等	文化芸術基本法、松山市文化芸術振興計画、松山市補助金等交付規則											
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”を目指す。松山市文化芸術振興計画の5つの目標「文化芸術に接する機会を増やす」「多様な人々が文化芸術を創造する」「俳句やこぼを軸とした松山の個性を伸ばす」「文化芸術の創造性を様々な分野に活かす」「文化創造に関わる人々を増やす」											
背景(どのような経緯で開始したか)	経済的な発展とともに、心豊かな社会を形成するため、文化芸術がその役割を果たせるよう事業を行っている。											
対象(誰を、何を)	補助金支出:松山市文化協会等 負担金支出:松山市文化創造支援協議会、愛媛国際映画祭実行委員会											
事業内容(どのような活動・手段か)	松山市文化協会等に対して補助金を交付し、文化団体の活動を通して、市民生活の向上や豊かな地域づくりに寄与する。松山市文化創造支援協議会に対して負担金を支出し、「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向けて「松山ブンカ・ラボ」による事業を実施する。愛媛国際映画祭実行委員会に対して負担金を支出し、愛媛国際映画祭イベントを開催する。											
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	1:有り		有りの場合、その協働の内容	松山ブンカ・ラボでは、NPOと連携して事業に取り組んでいる。							
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り		(有りの場合) URL	<a href="http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/keikaku/geizyutuskou.html">http://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/keikaku/geizyutuskou.html</a>		パンフレット等の有無	1:有り		(有りの場合) 設置場所	文化・こぼ課等	
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない		「有り」の場合、基準や金額等	「無し」の場合、その理由							
始期・終期(年度)	平成	26		～	終期設定できない場合の理由							継続して文化振興に取り組む、心豊かで多様性のある社会を実現するとともに、創造的で活力ある社会を実現するため。

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		目		文化振興費		H30予算措置時期		当初	9月補正
				H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H30年度	H31年度	H30年度	H31年度	H30年度	H31年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				22,927	21,871			38,226							43,505
決算額(B)(単位:千円)				19,910	20,328			36,945							
内訳(単位:千円) ※H28~30→決算内訳, H31→予算内訳	国支出金			0	0			4,933							11,610
	県支出金			0	0			0							0
	市債			0	0			0							0
	その他			0	0			0							0
	一般財源			19,910	20,328			32,012							31,895
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算								松山市文化協会補助金:17,920千円 文化創造支援事業負担金:9,865千円							松山市文化協会補助金:17,712千円 文化創造支援事業負担金:13,168千円 愛媛国際映画祭負担金:10,000千円
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等								9月補正:愛媛国際映画祭負担金:5,000千円							
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)	3,017	1,543			1,281							
人役(単位:人) ※小数点第一位まで	正規職員			2.5	2.6			2.6							2.7
	正規職員以外			0.0	0.0			0.2							0.0

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	松山市文化協会への補助金交付、松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向けた松山ブンカ・ラボによる事業実施。県との協働による愛媛国際映画祭イベントの開催。		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	経済的な発展や社会の多様性が進む中で、国では平成29年、法改正を行い、文化芸術の振興にとどまらず、文化芸術が観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、その他関連各分野の施策と有機的な連携を図ることを盛り込んだ。			
主な取組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向けた具体策を実施する松山ブンカ・ラボを始動することができた。			
中核市の実施状況	3:半数以上で実施	事業の独自性	松山ブンカ・ラボは愛媛大学の寄附講座を活用している。大学の寄附講座を活用した文化政策事業の実施は全国的にも珍しい。				
類似事業の有無(国,県,民間等)	1:有り	「有り」の場合,事業名・実施主体等	国や県も文化振興施策を実施している。				
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	政策性	1	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない		行政専門性	2	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	松山ブンカ・ラボや愛媛国際映画祭など新しい取り組みの実施により、今までは違う角度からの文化振興につながった。				
H31年度の目標	松山ブンカ・ラボの事業により、文化芸術を様々な分野で活用する「まつやま文化人」を増やす。文化協会の事業や愛媛国際映画祭の開催などにより、文化芸術の振興を図る。		H31年度の主な取組み内容(予定含む)	松山ブンカ・ラボでは、「スクール」 ワークショップ 「アートプロジェクト」の3つを事業の柱に取り組み。文化協会では、市民文化祭(美術展・芸術祭)などの文化事業を実施する。愛媛国際映画祭は、県と10市町により開催する。	特に環境変化,障害,課題等解決のため,H31年度で取り組む改善策	松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向け、引き続き、愛媛大学の専門性を生かして事業に取り組むため、寄附講座の制度を活用する。	



【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	松山ブンカ・ラボによる事業(イベント)実施数	件	目標値	-	-	-	20	20	目標値	20	
			実績値	-	-	-	6	-	達成年度	R4年度	
			% 達成度	-	-	-	-	-	-	-	-
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標						最終目標値の設定の考え方			
	本指標の設定理由	松山市文化芸術振興計画の将来ビジョン「市民全員が“まつやま文化人”」の実現に向けた取り組み。						5ヵ年単位で取り組む松山市文化芸術振興計画の最終年を達成年度とする。			
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
			% 達成度								
	指標の種類							最終目標値の設定の考え方			
	本指標の設定理由										
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
% 達成度											
指標の種類							最終目標値の設定の考え方				
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	文化芸術情報総合サイトの年間閲覧数	PV	目標値	-	-	2,000	9,000	36,000	目標値	36,000	
			実績値	-	-	2,555	-	-	達成年度	R4年度	
			% 達成度	-	-	128%	-	-	-	-	-
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標						最終目標値の設定の考え方			
	本指標の設定理由	市民が積極的に文化芸術情報への接触を求める数を計るものとして設定。						「市民全員が“まつやま文化人”」の実現度合いを測るため、単年度の増加を目指す。			
	松山市文化協会会員数	団体	目標値	251	251	251	251	251	目標値	251	
			実績値	224	221	212	-	-	達成年度	R4年度	
			% 達成度	89%	88%	84%	-	-	-	-	
	指標の種類	3:累計での増加を目指す指標						最終目標値の設定の考え方			
	本指標の設定理由	文化振興の醸成度合いを測るものとして設定。						高齢化による退会が新規加入数を上回る現状を踏まえて、平成20年の実績値の維持を最終目標としている。5ヵ年単位で取り組む松山市文化芸術振興計画の最終年を達成年度とする。			
			目標値							目標値	
			実績値							達成年度	
% 達成度											
指標の種類							最終目標値の設定の考え方				
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	松山ブンカ・ラボでは、文化芸術情報総合サイトの構築のほかに、キックオフシンポジウムや複数回のスクール事業等を開催することができた。「アートは社会の役に立つのか?」と題したキックオフシンポジウムには、130名の市民らが集まった。									
	成果指標	文化芸術情報総合サイトは年度末に開設したため、これから閲覧数の伸びに期待したい。文化協会では、団体構成員の高齢化により活動休止するなど退会が多くなっている。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	—	課等名	—	担当グループ名	—	連絡先	—
	部等長名	—	課等長名	—	リーダー名	主査	担当者名	
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こは課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査	担当者名	主事 浦川 健太

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	44211	松山城薪能事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金	
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-				
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-				
施策	文化芸術の振興と活用			主な取り組み	-				
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約						
取り組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実								
総合戦略	基本目標			取組み					(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無
	政策								
	施策								
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	2:無し	重点的取組事業該当有無(H30)	2:無し	(重点該当の場合)	開始年度	平成	終了(予定)年度	平成	
根拠法令,条例,個別計画等	松山市文化芸術振興計画								
事業の目的(どのような状態にするか)	松山城の薪能を「松山城400年祭」で再現以降、第九回からは堀の内(三之丸)に会場を変更し継続している。これをさらに発展させていくため、松山市文化協会の主催事業として能楽界のトップクラスの出演者による能を松山市民会館中ホールで開催することで、より多くの市民に観覧する機会を提供し松山での能楽の発展と文化の高揚を図る。(事業名を松山城三之丸能へ変更)								
背景(どのような経緯で開始したか)	能楽は、松山では藩主の庇護のもと盛んに行われ、今日まで受け継がれてきた伝統芸能である。これを継承し、発展させるため、平成14(2002)年度「松山城築城400年祭」を機に松山城山頂広場で薪能を再現し、各方面から高い評価をいただいた。平成30年度からは事業内容を観光振興目的に限らず広く文化振興事業として取組み、多くの市民に芸術鑑賞機会の提供を行えることを目的とした。								
対象(誰を,何を)	負担金交付先: 松山市文化協会								
事業内容(どのような活動・手段か)	松山城三之丸能を実施する松山市文化協会に負担金を支出する。松山市文化協会が公益社団法人愛媛能楽協会と公益財団法人文化・スポーツ振興財団の協力を得て、喜多流、観世流、大蔵流などの各流派の一流の能を上演している。								
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	2:無し	有りの場合、その協働の内容						
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り	(有りの場合) URL	<a href="http://www.city.matsuyama.ehime.jp/hodo/201810/sannomarunou2018.html">http://www.city.matsuyama.ehime.jp/hodo/201810/sannomarunou2018.html</a>		パンフレット等の有無	1:有り	(有りの場合) 設置場所	市内各所
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由		前売券4,000円、当日券4,500円				
始期・終期(年度)	平成	15	～	平成	30	終期設定できない場合の理由			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	H30年度			H30予算措置時期	当初
				H28年度	H29年度	H30年度		
現計予算額(A)(単位:千円)				3,600	3,600	3,600		0
決算額(B)(単位:千円)				3,600	3,600	3,017		
内訳(単位:千円) ※H28～30→決算内訳, H31→予算内訳	国支出金			0	0	0		0
	県支出金			0	0	0		0
	市債			0	0	0		0
	その他			0	0	0		0
	一般財源			3,600	3,600	3,017		0
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算						負担金3,017千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等						平成30年度、観光・国際交流課から文化・こは課へ事業移管	平成31年度、「三之丸薪能(松山市文化協会)」と一本化を行う	
予算執行残額(単位:千円)	(A)-(B)			0	0	583		
人役(単位:人) ※小数点第一位まで	正規職員			0.2	0.2	0.1		0.0
	正規職員以外			0.0	0.0	0.0		0.0

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	松山城三之丸能を実施する松山市文化協会に負担金を支出。初めての取り組みとして、小学生と保護者100組(200名)を招待。	H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	有料での参加者が減少しており、新たな参加者の確保が必要。		
主な取組み内容の達成度	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	小学生と保護者100組(200名)を招待したことにより、前年度の松山城薪能より参加者が増加した(H29:350→H30:389)。		
中核市の実施状況	2:半数未満で実施	事業の独自性	能楽は、松山では藩主の庇護のもと盛んに行われ、今日まで受け継がれてきた伝統芸能である。		
類似事業の有無(国,県,民間等)	1:有り	「有り」の場合,事業名・実施主体等	二之丸薪能(松山市文化協会)		
事業の公共性	必要性	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	2	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	行政専門性	2	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	小学生と保護者100組(200名)を招待したことにより、新たな層へ伝統芸能の鑑賞機会を提供することができたため。		
H31年度の目標		H31年度の主な取組み内容(予定含む)			特に環境変化,障害,課題等解決のため,H31年度で取り組む改善策

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主事	松本 沙紀	
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主任	福島 卓	

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	44211	松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金		
基本目標	健全で豊かな心を育むまち【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-					
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む				重点プロジェクト	-				
施策	文化芸術の振興と活用				主な取り組み	-				
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約							
取り組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実									
総合戦略	基本目標			取り組み					(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無	
	政策									
	施策									
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	2:無し	重点的取組事業該当有無(H30)	2:無し	(重点該当の場合)	開始年度	平成	終了(予定)年度	平成		
根拠法令,条例,個別計画等	松山市補助金等交付規則、松山市文化芸術振興計画									
事業の目的(どのような状態にするか)	本市の文化・スポーツを総合的に振興するため、松山市文化・スポーツ振興財団の人員費・管理運営費を補助金として支出し、財団運営の安定を図る。									
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市施設管理公社と松山市生涯学習振興財団を統合し、文化及びスポーツ等の振興を目的とする松山市文化・スポーツ振興財団が平成22年に設立されたことを機に、生涯学習振興財団に対する補助金を引き継ぎ、松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金とした。									
対象(誰を,何を)	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団									
事業内容(どのような活動・手段か)	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団の運営について補助金による支援を行っている。									
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	2:無し	有りの場合、その協働の内容							
事業の周知状況	HP掲載の有無	2:無し	(有りの場合) URL	パンフレット等の有無		3:作成する性質でない	(有りの場合) 設置場所			
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由							
始期・終期(年度)	平成	22	～	終期設定できない場合の理由		本市の文化・スポーツを継続的に振興する必要があるため。				

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	項	社会教育費		社会教育総務費	H30予算措置時期	当初
					H28年度	H29年度			
現計予算額(A)(単位:千円)					69,460	65,833	65,867		65,466
決算額(B)(単位:千円)					62,211	64,446	61,398		
内訳(単位:千円) ※H28～30→決算内訳, H31→予算内訳	国支出金				0	0	0		0
	県支出金				0	0	0		0
	市債				0	0	0		0
	その他				0	0	0		0
	一般財源				62,211	64,446	61,398		65,466
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算							松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金 61,398千円		松山市文化・スポーツ振興財団事業振興補助金 65,466千円
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)			7,249	1,387	4,469		
人役(単位:人) ※小数点第一位まで	正規職員				0.1	0.1	0.1		0.1
	正規職員以外				0.0	0.0	0.0		0.0

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	松山市文化・スポーツ振興財団に補助金を交付し、松山市の文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進した。	H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	特に無し			
主な取組み内容の達成度	→ ↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	補助金を交付し、松山市文化・スポーツ振興財団の人員費・管理運営費として、業務が円滑に進むよう有効的に活用することができた。			
中核市の実施状況	4:わからない	事業の独自性	特に無し			
類似事業の有無(国,県,民間等)	2:無し	「有り」の場合,事業名・実施主体等				
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	1	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	行政専門性	2	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進し、創造性豊かで健全な市民生活の形成と潤いと活力にあふれた地域社会の発展に貢献している。			
H31年度の目標	文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進する。	H31年度の主な取組み内容(予定含む)	松山市の文化・スポーツの振興を推進する松山市文化・スポーツ振興財団の人員費及び管理運営費を補助し、魅力あるまちづくりを推進する。	特に環境変化,障害,課題等解決のため,H31年度で取り組む改善策	特に無し	

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主事	松本 沙紀	
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・ことば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主任	福島 卓	

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	44211	文化スポーツ振興事業補助金	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	5:補助金・負担金		
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-					
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む				重点プロジェクト	-				
施策	文化芸術の振興と活用				主な取り組み	-				
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約							
取り組みの柱	文化芸術に触れる機会の充実									
総合戦略	基本目標			取組み					(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無	
	政策									
	施策									
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	2:無し	重点的取組事業該当有無(H30)	2:無し	(重点該当の場合)	開始年度	平成	終了(予定)年度	平成		
根拠法令, 条例, 個別計画等	松山市補助金等交付規則, 松山市文化芸術振興計画									
事業の目的(どのような状態にするか)	松山市文化・スポーツ振興財団が実施する文化・スポーツ振興事業に対して補助金を支出し、本市の文化・スポーツの総合的な振興を図る。									
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市施設管理公社と松山市生涯学習振興財団を統合し、文化及びスポーツ等の振興を目的とする松山市文化・スポーツ振興財団が平成22年に設立されたことを機に、生涯学習振興財団に対する補助金を引き継ぎ、文化スポーツ振興事業補助金とした。									
対象(誰を, 何を)	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団									
事業内容(どのような活動・手段か)	公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団の実施事業について補助金による支援を行っている。									
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	2:無し	有りの場合、その協働の内容							
事業の周知状況	HP掲載の有無	2:無し	(有りの場合) URL	パンフレット等の有無		3:作成する性質でない	(有りの場合) 設置場所			
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由		教室事業、講演等事業は参加費徴収あり					
始期・終期(年度)	平成	22	～	終期設定できない場合の理由		本市の文化・スポーツを継続的に振興する必要があるため。				

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	教育費		社会教育費		社会教育総務費	H30予算措置時期	当初
				H28年度	H29年度	H30年度	H31年度			
現計予算額(A) (単位:千円)				7,630	6,549			6,494		5,650
決算額(B) (単位:千円)				6,426	5,013			4,671		
内訳 (単位:千円) ※H28～30→決算内訳, H31→予算内訳	国支出金			0	0			0		0
	県支出金			0	0			0		0
	市債			0	0			0		0
	その他			0	0			0		0
	一般財源			6,426	5,013			4,671		5,650
主な経費(単位:千円) ※H30→決算, H31→予算							文化スポーツ振興事業補助金 4,671千円		文化スポーツ振興事業補助金 5,650千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越, 補正, 流用, 事業統合等										
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)		1,204	1,536			1,823		
人役(単位:人) ※小数点第一位まで	正規職員			0.1	0.1			0.1		0.1
	正規職員以外			0.0	0.0			0.0		0.0

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	松山市文化・スポーツ振興財団の文化・スポーツ事業に補助金を交付し、市民に文化・スポーツに触れる機会を提供することで、文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進した。		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	特に無し		
主な取組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点, 悪かった点など	補助金事業として、子どもからお年寄りまで幅広く参加できる事業を実施した。特に、劇団四季の「このころの劇場」では、松山市内の小学生にプロのミュージカルを鑑賞してもらい、文化に関わるきっかけを提供することができた。また、市民の運動不足を解消するようなスポーツ事業も積極的に実施し、本市の文化・スポーツ活動の活性化が図られた。		
中核市の実施状況	4:わからない	事業の独自性	特に無し			
類似事業の有無(国, 県, 民間等)	2:無し	「有り」の場合, 事業名・実施主体等				
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	1	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	2	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	行政専門性	2	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	事業を通して市民の文化・スポーツ活動の活性化が図られている。			
H31年度の目標	文化・スポーツを総合的に振興し、文化が薫りスポーツ活動に満ち溢れた魅力あるまちづくりを推進する。	H31年度の主な取組み内容(予定含む)	補助金事業として、市民文化フェスタ、伝統文化子ども伝承事業など文化に関連した事業及び市民スポーツフェスタなどスポーツに関連した事業を実施し、市民の文化・スポーツ体験の機会増加を図る。	特に環境変化, 障害, 課題等解決のため, H31年度で取り組み改善策	特に無し	

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	副主幹	中川 耕児	
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	主任	福島 卓	

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	44212	ふるさと館管理運営事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	3:指定管理	
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-				
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-				
施策	文化芸術の振興と活用			主な取り組み	-				
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約						
取り組みの柱	文化芸術活動の環境整備								
総合戦略	基本目標			取組み					(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無
	政策								
	施策								
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	2:無し	重点的取組事業該当有無(H30)	2:無し	(重点該当の場合)	開始年度	平成	終了(予定)年度	平成	
根拠法令, 条例, 個別計画等	松山市北条ふるさと館条例, 松山市北条ふるさと館条例施行規則, 松山市文化芸術振興計画								
事業の目的(どのような状態にするか)	北条ふるさと館は、歴史民俗資料・美術品の展示、歴史文化等各種講座を実施して、市民文化の振興を図ることを目的とした施設である。また、北条ふるさと館は、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図ることを目的とした指定管理者制度により、施設の管理運営を行う。								
背景(どのような経緯で開始したか)	北条ふるさと館は、市民の文化振興を図る目的で平成7年に供用開始。松山市内、特に北条地域の文化の発信の場としても位置付けられている。								
対象(誰を, 何を)	北条ふるさと館の管理運営。								
事業内容(どのような活動・手段か)	指定管理者制度を導入し、ふるさと北条ファンづくり応援団へ指定管理料を支出している。指定管理者による美術展示室や歴史民俗資料展示室での展示、講演会・研修会等が開催できる会議室等の提供及び市民の作品発表の場としての展示室等の貸出をはじめ、歴史文化等が学習できる講座を行っている。また、建築物等施設や機材設備の耐用年数により予測される不具合に対し、計画的に改修を行う「予防保全」と、予期せぬ故障が起こった場合改修等を行う「事後保全」により施設の維持を行っている。								
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	2:無し	有りの場合、その協働の内容						
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り	(有りの場合) URL	http://www.fuyom.com/facility/hoiofurusato/		パンフレット等の有無	1:有り	(有りの場合) 設置場所	総合窓口案内所
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由		松山市北条ふるさと館条例、松山市北条ふるさと館条例施行規則に記載				
始期・終期(年度)	平成	7	～	終期設定できない場合の理由	施設が存続する限り必要な経費であるため				

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		項	総務管理費		目	文化振興費	H30予算措置時期		当初	
				H28年度	H29年度		H30年度	H31年度						
現計予算額(A)(単位:千円)				34,323	38,403				37,999				38,103	
決算額(B)(単位:千円)				34,259	37,513				37,680					
内訳(単位:千円) ※H28～30→決算内訳, H31→予算内訳			国支出金	0	0				0				0	
			県支出金	0	0				0				0	
			市債	0	0				0					0
			その他	2,671	2,917				2,979					2,660
			一般財源	31,588	34,596				34,701				35,443	
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算									指定管理料:35,123千円				指定管理料:35,449千円	
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等														
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)	64	890			319					
人役(単位:人) ※小数点第一位まで				正規職員	0.2	0.2			0.2				0.2	
				正規職員以外	0.0	0.0			0.0				0.0	

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	指定管理者による施設の維持管理、歴史文化等講座や自主事業の実施。 突発的な不具合に対応するための修繕工事の実施。		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	特に無し		
主な取組み内容の達成度	↑	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	自主事業やイベント誘致など、指定管理者のネットワークを活用した事業の実施により、当初目標を上回る施設利用者の増加がみられた。		
中核市の実施状況	3:半数以上で実施	事業の独自性	公の施設の管理については、直営によるもののほか、他の団体に行わせる場合も、指定管理者制度によることとされているため、今後も指定管理者制度により、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図る。			
類似事業の有無(国,県,民間等)	2:無し	「有り」の場合,事業名・実施主体等				
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	政策性	2	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	行政専門性	1
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、市民が歴史や文化芸術に気軽に触れることができ、歴史・文化活動に参加できる機会を創出し、本市の文化振興に寄与している。			
H31年度の目標	指定管理者のノウハウを積極的に活用し、利用者の増加及び使用料収入の増加を図る。 (目標値:13,200人) 計画的な予防保全と、突発的な事後保全による建物等施設の適正な維持管理。		H31年度の主な取組み内容(予定含む)	各種歴史文化講座や指定管理者が行う自主事業を実施する。 北条ふるさと館の施設維持を目的に修繕工事を実施する。	特に環境変化,障害,課題等解決のため,H31年度で取り組む改善策	特に無し

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	副主幹	中川 耕児	
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こぼ課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	副主幹	中川 耕児	

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	44212	市民会館管理運営事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	3:指定管理	
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム	-				
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト	-				
施策	文化芸術の振興と活用			主な取り組み	-				
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約						
取り組みの柱	文化芸術活動の環境整備								
総合戦略	基本目標			取組み					(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無
	政策								
	施策								
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	1:有り	重点的取組事業該当有無(H30)	2:無し	(重点該当の場合)	開始年度	平成	終了(予定)年度	平成	
根拠法令, 条例, 個別計画等	松山市民会館条例、松山市民会館条例施行規則、松山市北条市民会館条例、松山市北条市民会館条例施行規則、松山市文化芸術振興計画								
事業の目的(どのような状態にするか)	両市民会館については、本市の文化拠点であることから、適正な管理運営により、市民が文化芸術を鑑賞する場、練習・発表する場を提供することを目的とする。また、松山市民会館については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図ることを目的とした指定管理者制度により、施設の管理運営を行う。								
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市民会館は、昭和40年に供用開始。松山市中心部に位置し、本市の文化芸術活動の中核拠点としての役割を担っている。北条市民会館は、昭和55年に供用開始。主に北条地域の文化の発信や交流の場として活用されている。								
対象(誰を、何を)	松山市民会館、北条市民会館の管理運営。								
事業内容(どのような活動・手段か)	・松山市民会館については、平成18年度から指定管理者制度を導入しており、第4期指定管理期間(平成31年度～平成35年度)は、公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団が指定管理者として施設の管理運営を行っている。 ・北条市民会館については、受付等は北条支所が、その他の光熱水費、燃料費、音響照明等管理運営については、文化・こぼ課が担当し管理運営を行っている。								
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	2:無し	有りの場合、その協働の内容						
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り	(有りの場合) URL	<a href="https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisetsu/bunka/index.html">https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisetsu/bunka/index.html</a>		パンフレット等の有無	1:有り	(有りの場合) 設置場所	総合窓口案内所
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由		松山市民会館条例、松山市民会館条例施行規則、松山市北条市民会館条例、松山市北条市民会館条例施行規則に規定				
始期・終期(年度)	昭和	40	～	終期設定できない場合の理由		施設が存続する限り必要な経費である			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	総務費		総務管理費		市民会館費		H30予算措置時期		当初
				H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H30年度	H31年度			
現計予算額(A)(単位:千円)				213,925	208,879			203,833				210,460
決算額(B)(単位:千円)				192,627	201,760			190,635				
内訳(単位:千円) ※H28～30→決算内訳, H31→予算内訳	国支出金			0	0			0				0
	県支出金			0	0			0				0
	市債			0	0			0				0
	その他			99,087	97,497			95,231				97,492
	一般財源			93,540	104,263			95,404				112,968
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算								・松山市民会館指定管理料 182,212千円 ・北条市民会館施設点検等委託料 3,610千円				・松山市民会館指定管理料 194,629千円 ・北条市民会館施設点検等委託料 4,921千円
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等												
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)		21,298	7,119			13,198				
人役(単位:人) ※小数点第一位まで	正規職員			0.2	0.2			0.3				0.2
	正規職員以外			0.0	0.0			0.1				0.0

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取組み内容	・松山市民会館については、指定管理者制度により管理運営を行った。 ・北条市民会館については、北条支所が窓口等業務を、文化・こぼ課がその他の管理運営を行った。		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	特に無し		
主な取組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	松山市民会館では、指定管理者の自主事業として、ゴスペル教室、ペン習字教室、カメラ教室、フラダンス教室など施設の活性化を推進する事業を継続して実施し、単に指定管理にとどまるだけでなく、施設の積極的な活用を行っていることが評価できる。		
中核市の実施状況	3:半数以上で実施	事業の独自性	公の施設の維持管理については、直営によるものほか、他の団体に行わせる場合も、指定管理者制度によることとされているため、今後も指定管理者制度により、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図る。			
類似事業の有無(国,県,民間等)	1:有り	「有り」の場合,事業名・実施主体等	松山市総合コミュニティセンターや愛媛県民文化会館がある			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	政策性	2	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	行政専門性	1
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、市民が文化芸術に触れ、参加できる機会を創出することにより、本市の文化振興に寄与している。			
H31年度の目標	・松山市民会館については、指定管理者による施設の適正な管理運営と自主事業による利用者の増加 ・北条市民会館については、適正な管理運営と利用者の増加		H31年度の主な取組み内容(予定含む)	・松山市民会館については、指定管理者制度による適正な管理運営を行う。 ・北条市民会館については、北条支所が窓口等業務を行い、文化・こぼ課がその他の管理運営を行う。	特に環境変化,障害,課題等解決のため,H31年度で取り組む改善策	特に無し

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	松山市民会館利用者数	人	目標値	316,000	319,000	362,700	366,000	369,200	目標値	375,700	
			実績値	318,537	325,862	315,051			達成年度	R4年度	
		%	達成度	101	102	87					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	平成30年度から、松山市総合計画後期基本計画「市文化施設の利用者数」(対象施設:松山市民会館、北条市民会館、北条ふるさと館、カメラアホール)の「目標値(平成34年度)」を基に、各施設の目標値を設定。			
	本指標の設定理由	施設利用の活動状況を知るためには、利用人数が最適な数値であるため									
	北条市民会館利用者数	人	目標値	23,500	23,700	21,700	21,900	22,100	目標値	22,400	
			実績値	18,905	17,892	18,676			達成年度	R4年度	
		%	達成度	80	75	86					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	平成30年度から、松山市総合計画後期基本計画「市文化施設の利用者数」(対象施設:松山市民会館、北条市民会館、北条ふるさと館、カメラアホール)の「目標値(平成34年度)」を基に、各施設の目標値を設定。			
	本指標の設定理由	施設利用の活動状況を知るためには、利用人数が最適な数値であるため									
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	松山市民会館年間使用料収入	千円	目標値	94,700	92,000	92,000	92,125	92,875	目標値	95,125	
			実績値	92,382	91,350	89,464			達成年度	R5年度	
		%	達成度	98	99	97					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	松山市民会館の第4期指定管理期間(平成31年度～平成35年度)の最終年度を達成年度とする。目標値は、館全体で年度上昇率を約1%と見込み、平成31年度から年間上昇額を毎年750千円と算出して設定。			
	本指標の設定理由	利用状況の成果を知るためには、使用料収入が最適な数値であるため									
	北条市民会館年間使用料収入	千円	目標値	3,402	3,200	3,100	2,900	2,950	目標値	3,100	
			実績値	2,910	2,838	2,668			達成年度	R5年度	
		%	達成度	86	89	86					
	指標の種類	1:単年度での増加を目指す指標					最終目標値の設定の考え方	松山市民会館の達成年度と同一とし、松山市民会館の第4期指定管理期間の最終年度を達成年度とする。目標値は、館全体で年度上昇率を約1%と見込み、平成31年度から年間上昇額を毎年50千円と算出して設定。			
	本指標の設定理由	利用状況の成果を知るためには、使用料収入が最適な数値であるため									
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	松山市民会館の利用者数は、集客が見込める大規模催事の開催数により上下するが、指定管理者の利用者数増加へ向けての働きかけにより、例年通り約32万人前後で推移しており、一定の評価ができる。北条市民会館の利用者数も、リピーター確保の働きかけ等により例年と同様2万人弱で推移しており、一定の評価ができる。									
	成果指標	両施設とも、目標に達成していない状況である。今後さらに、使用料収入の増加へむけ、新規利用者の獲得など利用者数の増加に努めなければならない。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートA>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	副主幹	中川 耕児	
H30年度	部局等名	総合政策部	課等名	文化・こば課	担当グループ名	文化振興・施設担当	連絡先	948-6634		
	部等長名	河合 洋二	課等長名	大石 和可子	リーダー名	主査 池田 晋作	担当者名	副主幹	中川 耕児	

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	44212	市民会館改修事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	4:工事(工事に伴う設計委託含む)	
基本目標	健全で豊かな心を育む【教育・文化】		笑顔プログラム	個別プログラム					
政策	松山市固有の文化芸術を守り育む			重点プロジェクト					
施策	文化芸術の振興と活用			主な取り組み					
主な取り組み	文化芸術活動の継承・推進及び支援		市長公約						
取り組みの柱	文化芸術活動の環境整備								
総合戦略	基本目標			取組み					
	政策								
	施策								
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	2:無し	重点的取組事業該当有無(H30)	2:無し	(重点該当の場合)	開始年度	平成	終了(予定)年度	平成	
根拠法令,条例,個別計画等	松山市民会館条例、松山市民会館条例施行規則、松山市北条市民会館条例、松山市北条市民会館条例施行規則、松山市文化芸術振興計画								
事業の目的(どのような状態にするか)	市民に松山市民会館と北条市民会館を快適に利用していただくため、計画的な「予防保全」、故障・不具合が生じた場合の「事後保全」により、施設を適正に維持するための改修を行う。								
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市民会館は、昭和40年に供用開始。北条市民会館は、昭和55年に供用開始。								
対象(誰を、何を)	・松山市民会館 ・北条市民会館								
事業内容(どのような活動・手段か)	建築物等施設や機材等設備の耐用年数や兆候などあらかじめ予測される不具合に対し、計画的に改修を行う「予防保全」と、突発の故障・不具合について改修を行う「事後保全」により、施設の維持保全を行っている。								
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	3:協働する性質でない	有りの場合、その協働の内容						
事業の周知状況	HP掲載の有無	2:無し	(有りの場合) URL	パンフレット等の有無		3:作成する性質でない	(有りの場合) 設置場所		
受益者負担の状況	負担の有無	3:負担する性質でない	「有り」の場合、基準や金額等 「無し」の場合、その理由						
始期・終期(年度)	昭和	40	～	終期設定できない場合の理由		施設が存続する限り必要な経費である			

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	項	総務管理費	目	市民会館費	H30予算措置時期	
								H28年度	H29年度
現計予算額(A)(単位:千円)							14,589		13,635
決算額(B)(単位:千円)							13,535		
内訳(単位:千円) ※H28~30→決算内訳, H31→予算内訳	国支出金		0		0		0		0
	県支出金		0		0		0		0
	市債		0		0		0		0
	その他		0		0		0		0
	一般財源		6,306		4,843		13,535		13,635
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算					工事請負費:13,535千円		工事請負費:13,635千円		
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等									
予算執行残額(単位:千円)		(A)-(B)	4,694	7,207		1,054			
人役(単位:人) ※小数点第一位まで	正規職員		0.1	0.1		0.1			0.1
	正規職員以外		0.0	0.0		0.0			0.0

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	松山市民会館は、平成29年度からの繰越工事となっていた給水装置改修工事の他、ターボ冷凍機分解整備修繕工事を主に行った。北条市民会館は、トイレ洋式化改修工事の他、事後保全のための突発的な修繕工事を行った。		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	老朽化施設であるため、施設の維持保全を図るため、計画的に予防保全を図る必要がある。		
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	当初予定の工事は、目標通り達成できた。		
中核市の実施状況	3:半数以上で実施	事業の独自性	特に無し			
類似事業の有無(国,県,民間等)	1:有り	「有り」の場合,事業名・実施主体等	松山市総合コミュニティセンターや愛媛県民文化会館がある。			
事業の公共性	必要性	3	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	2	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	行政専門性	1	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	本事業の実施により、施設の適正な維持が図られ、市民が市民会館を快適に利用できる環境づくりができています。			
H31年度の目標	経年劣化等により故障・不具合について改修を行う「事後保全」と、あらかじめ予測される不具合に対し、計画的に改修を行う「予防保全」を行うことにより、施設の維持保全を行う。		H31年度の主な取り組み内容(予定含む)	予防保全及び事後保全として、松山市民会館、北条市民会館の設備改修工事を行う。 松山市民会館 ・大ホール舞台外雨漏り修繕工事 北条市民会館 ・トイレ洋式化工事	特に環境変化,障害,課題等解決のため,H31年度で取り組む改善策	松山市民会館は、築54年を迎える老朽化施設であるため、施設の維持保全を図るため、計画的に予防保全を図る必要がある。